

平成28年3月31日

島田市長 染谷絹代 様

第一期 島田市ゆめ・みらい百人会議
エコまち未来プロジェクト Aチーム

第一期 島田市ゆめ・みらい百人会議 エコまち未来プロジェクトAチーム 最終提言書
「ごみの更なる減量化を推進しよう」 に対するその後の活動と、結果まとめ

私たち、「第一期 島田市ゆめ・みらい百人会議エコまち未来 Proj A チーム」は、「ごみの更なる減量化を推進しよう」を掲げて、庁内に設置して頂いた、「ごみの更なる減量化推進合同検討会」で検討した結果を、去る9月5日の提言発表会で提案致しましたことをご周知の通りです。当提言は道半ばということで、その後も検討会を継続して頂き、精力的な検討を行い今日に至りました。検討は、多岐に渡りましたが、前述の最終提言書に準じて、できた事、できない事、先送りする事、を整理し下記の通り提出致します。尚、「第一期 ゆめ・みらい百人会議」は、10月18日をもって任期満了となっておりますので、平成27年度末をもって、「ごみの更なる減量化推進合同検討会」は、一区切りと致します。どうか懸案事項として残った案件は今後とも関係各課で宜しくお願い致します。長い間、環境課様を始め、行政各課様には本当にお世話になり心から、改めて御礼を申し上げます。

記

1. 9月5日の提言発表会のテーマ名と3つの検討項目

テーマ 楽しくごみ減らし♪ いいこと待ってるぞ～ 「ごみの更なる減量化を推進しよう」

合同検討会では、3つのやることを決め、継続検討をしてきました。

委員：環境課（栗原課長・橋本課長補佐・大庭担当 様） 市民委員（諸田・駒形・池原・斎藤・白石）

- (1) 雑紙の完全分別回収
- (2) エコクッキングの一般家庭内普及（特に水切り・生ごみの自家処理ができない家庭対象）
- (3) 生ごみの自家消滅化（キエーロ）・自家堆肥化への挑戦

2. 9月5日の提言発表会の提言と、その後の結果の対比

社名・団体名等敬称 略

	提言書 原文どおり	提言に対するその後の結果
1. はじめに	<p>島田市には、「一般廃棄物処理基本計画」があり、ごみの実態や将来予測、その削減目標や目標達成のための手段も明確にされ、市民にその実行を求めています、多くの手段が市民への啓蒙（お願い）に止まっています。</p> <p>当プロジェクトでは、市民に向けて、もう啓蒙だけの時期は過ぎたとして、形ある具体的な方法を示すことによって市民に実践を促すことにしました。</p> <p>そのためには、ごみ行政を託している市の環境課と、企画段階から同じテーブルについて協働して実行計画を立案するのが最善だと判断しました。</p> <p>そこで、百人会議の窓口であった元企画課の了解の上で、当エコまち未来 Proj A チームと、担当部署の「環境課」と協働して「ごみの更なる減量化推進合同検討会」を去る平成25年2月、庁内に立ち上げて精力的な検討を始めて今日に至りました。</p> <p>本提言書は、今回まだ中間報告的なものになりましたが、引き続き合同検討会を継続して最終提案まで漕ぎつけようと思っています。</p> <p>市民が「なぜごみの減量が必要なのか」を良く理解し、「それをやるためにどうしたら良いのか」を考え、目指す方向や減量目標に向かって市民が着実に実行に移す契機になるものと確信し、ここに提言をします。</p>	<p>「ごみの更なる減量化推進合同検討会」を継続開催して、精力的検討を致しました。</p> <p>島田市には、「島田市一般廃棄物処理基本計画」があり、これにごみの削減目標や、目標達成のための手段が明確に示されているにも拘わらず、市民の多くが安易に「燃えるごみ袋」に入れて排出しています。</p> <p>市民の中には、「以前はもっと厳格に分別していたが、今は本当に楽になってしまった。本当に今のままで良いのだろうか」と思いつつ、燃えるごみ袋に入れて排出している人もいます。</p> <p>お願いや啓蒙の時期は過ぎたのではないかと。今回の合同検討会は、市民は、「今、なぜごみの減量が必要なのか」を良く理解していないことに着目して、「どう必要性を知らしめ、どうやって減量してもらうか」を検討の中核に据えて検討してきました。</p> <p>しかし、何をやるにも資金が必要で何もかも同時スタートはできません。今回、環境課様と協働で、いくつかの減量化施策を打ち出すことができましたが、多くの案件は将来の課題として残りました。</p> <p>ごみの減量化の必要性を徹底するには、「ごみの分け方マニュアル」を持参して、町内会を小まめに回って市民と会話する等の有効な手段も話し合われましたが、残念乍ら今回、実行するまでには行かず今後の課題として先送りしました。</p>

<p>2. 合同検討会設置の目的 (検討会設置要綱 第一条 記述)</p>	<p>島田市総合計画後期基本計画には、施策の柱として掲げられている、「循環型社会の推進と生活環境の保全」を実現する手段として、ごみの排出抑制と資源化の推進が記述されています。 今回の合同検討会は、特に燃えるごみに着目して、ごみの種類ごとに具体的な減量方法を、市と市民の協働により調査・検討し、市民への普及を目指す目的で設置しました。</p>	<p>同左</p>
<p>3. 合同検討会の約束</p>	<p>(1) あまり理想に走らない。 (2) ごみに関する情報は公開し共有化する。</p>	<p>同左</p>
<p>4. 島田市総合計画(後期実行計画)における、ごみ・小水力の記述</p>	<p>ごみの排出抑制とリサイクルの促進 ごみの排出抑制やリサイクルを促進し、市民一人ひとりの、「資源を無駄にしない」意識の醸成を計ります。と記述されています。</p>	<p>同左</p>
<p>5. 島田市民のごみ・小水力に対する評価</p>	<p>島田市が平成26年12月に実施した住民アンケートによると、「現在の島田市の取り組みに対して満足していることは何ですか」の問いに対し、市民は「ごみ・リサイクル対策」を第一に上げており、市民の満足度(74.8%)は極めて高い。</p>	<p>平成27年度も島田市住民アンケートが実施されました。これによりますと、昨年同様(同左)、島田市民は、満足度の第一位に「ごみ・リサイクル対策」を上げました。 (燃えるごみの分別を徹底している他の自治体の調査は別の結果が出ています。)</p>
<p>6. 島田市民のごみに対する想いや環境意識 市内の小学校4・5・6年生の保護者を対象にして、環境意識調査を2回に渡り実施しました。</p>	<p>一方、平成24年12月に市民団体が実施した「ごみの分別とリサイクルに関する市民意識調査」によると、台所の生ごみは、燃えるごみとして出している人(88.9%)が圧倒的だが、リサイクルをした方が良いとする人(56.6%)も多く、仮に市が生ごみを分別することになった場合、あなたの家庭ではどの程度できますかに対して、できる(32.7%)、ある程度できる(50.4%)と答えている。また手間のかかるごみの分別をどの程度できるかに対して、実行できる(22.5%)、ある程度実行できる(64.7%)と答え、ごみ行政に満足している半面</p>	<p>平成26年12月に、市民団体が再調査を実施した「地域活動とごみ分別に関する意識調査」<配布総数1149世帯 回収数820世帯>によると、 ◆ 生ごみは燃えるごみだから燃えるごみとして処理すれば良い。57.7% ◆ 手間がかかってもリサイクルしたほうがよい。42.3% ◆ 仮に市が生ごみを分別することになった場合、あなたの家庭では、生ごみの分別をどの程度できますかに対して、できる(22.8%)、ある程度できる(53.0%)と答えています。 ◆ また「手間のかかるごみの分別をどの程度できるかに対して、実行できる(18.1%)、ある程度実行できる(65.4%)と答えた。(3/12)</p>

<p>■ 1回目 (24/12) 4校 (配布 309 回収 280)</p> <p>■ 2回目 (26/12) 5校 (配布 1149 回収 820)</p>	<p>で、環境に対しては前向きで、現状に後ろめたさも感じている。 上記調査は、地元出身の福岡工業大学の仁科教授のご指導の下で、市内4小学校4・5・6年生の保護者を対象に、ごみに関する環境意識を繰り返し聞いたものです。</p>	<p>ごみ行政に満足している半面で、環境に対しては前向きで、現状に後ろめたさを感じています。上記調査は、地元出身の福岡工業大学の仁科教授のご指導の下で、市内の5つの小学校4・5・6年生全員の保護者を対象に、地域活動とごみ分別に関する意識を繰り返し聞いたものです。</p>
<p>7. 合同検討会の 検討回数と 出席者</p>	<p>(1) 「ごみの更なる減量化推進合同検討会」 第1回 (2/24) 第2回 (4/22) 第3回 (5/25) 第4回 (7/3) 第5回 (8/11) 出席者：環境課・百人会議エコまち未来 ProjA チーム</p>	<p>(1) 「ごみの更なる減量化推進合同検討会」を継続開催しました。 第6回 (12/18) 第7回 (2/4) 第8回 (3/24) 出席者：環境課・百人会議エコまち未来 ProjA チーム</p>
<p>8. 合同検討会以外の活動状況と 内容</p> <p>勉強会・見学会・先進事例視察・意見交換会等実施状況</p> <p>(詳細は別紙活動報告〈写真〉参照)</p>	<p>(1) 6/7 食推協さん調理現場(水分除去など)見学 (2) 6/30 食推協さん役員会で「島田市のごみの現状と課題」を説明し、エコクッキングの普及について意見交換 (3) 6/25 「藤枝市ごみ行政とごみの処理現場見学会」を実施、生ごみ・雑紙・プラなどの完全分別を勉強した。 (4) 7/9 「市内で生ごみの堆肥化・消滅化に取り組んでいる市民団体の意見交換会」を実施し、一般家庭への生ごみの自家処理の普及について打合せした。 (5) 8/20 「健康づくり課」「食推協」とエコクッキングについて打合せ (6) 平成26年度「ごみ行政出前研修会」「田代プラザ見学」</p>	<p>合同検討会以外の活動は、左記に引き続いて次の様に開催してきました。 (1) 10/17 「島田市暮らし・消費・環境展2016」へ出展 「挑戦!燃えるごみを半分に減らそう」で市民にアピール 出展団体：金谷ライフクリエイターサークル・ネットワーク桜花・NPO法人しまだ環境ひろばなど (2) 12/5 生ごみの自家処理学習会「あなたにピッタリの生ごみ処理法を選ぼう」共催：生ごみ自家処理3団体 + 一般市民 (3) 1/14・3/2 「親子でエコ・クッキング」打合せ 共催：健康づくり課・環境課・島田ガス・食推協・しまだ環境ひろば・島田市の循環型社会を考える会 ＜本件は、参加者が集まらず中止が決定＞</p>
<p>9. 合同検討会で出てきた問題点と課題の抽出</p> <p>実証実験を自らやっ て、検証した。</p>	<p>(1) 燃えるごみの組成分析(どんなもので構成されているか) この数字がフラフラすると検討にならない。環境課が、これまでと異なる方法で回収ごみの組成分析を実施、未確定値ながら当面この数値を使うことにした。 (2) 燃えるごみの種類別の減量化対策 ① 生ごみ *自家堆肥化・消滅化 → 自家処理家庭の拡大</p>	<p>(1) これまで組成分析数値は公表されていませんが、今後公表して行くことになりました。この数値がないと、燃えるごみの減量の実態がわかりません。 (2) 同左</p>

(この中から、今回
合同検討会で取り上
げるテーマを決めて
行った。)

集団回収や、業者直
接回収などの仕組み
や実態の要情報公開
(知られていない)

(家庭用ごみ処理機の助成制度改定を要す)

- *市による集中処理システムの構築の可能性
- *調理くず
(野菜や果樹の皮・芯) → 水分除去・エコクッキング
(魚・肉の骨やくず) → エコクッキング
- *茶殻・紅茶殻・コーヒー殻 → 水分除去
- *食べ残し(ご飯・おかず) → 水分除去・エコクッキング
- ② 雑紙 → 分別(燃えるごみとしない)
- ③ プラスチック・ビニール等包装容器 → 分別
- ④ 家庭から出る剪定枝 → 分別
- ⑤ 草の自家処理 → 堆肥化方式の検討・提案
- ⑥ 給食センター残渣 → 分別後生ごみ堆肥の完熟化
- ⑦ 古布・紙パック・牛乳パック・ペットボトル・キャップ
など資源ごみは既存の分別収集ルールの徹底・拡大
- ⑧ 資源ごみの集団回収のルールの明確化
回収量の報告可否? 収入はどこに? 額は?
- ⑨ 業者への直接搬入ルールの明確化
回収量の報告可否? 収入はどこに? 額は?
- ⑩ 民間業者によるごみ回収BOX設置のルール化
回収量の報告可否? 収入はどこに? 額は?
- ⑪ 資源ごみの分別回収の指導要領の明確化
特に曖昧な新聞と広告と雑誌と雑紙の区別など
持ち去り防止策
- ⑫ キエーロの用済み黒土の成分分析と黒土の処分方法
- ⑬ ごみの減量化に伴うごみの経費の削減メカニズム解析
- ⑭ ごみの減量化目標の設定と対策の市民徹底方法の構築

<p>10. 合同検討会での活動テーマの絞り込み</p>	<p>問題点と課題を取捨選択し、今回は次の3点に絞り込みました。</p> <p>(1) 雑紙の完全分別回収</p> <p>(2) エコクッキングの一般家庭内普及（特に水切り）</p> <p>(3) 生ごみの自家消滅化・堆肥化への挑戦</p>	<p>同左</p>
<p>11. 先送りした主なテーマ</p> <p>(いずれ手を付けないくはならない)</p>	<p>(1) プラ・ビニールの分別回収（近々の課題）</p> <p>(2) 生ごみの集中回収方式の導入（市が回収して堆肥化）</p> <p>(3) 古布の回収拠点の増設</p> <p>(4) 家庭用剪定枝の分別回収</p> <p>(5) 草類の自家処理</p> <p>(6) 給食センターからの生ごみ堆肥の完熟化</p> <p>(7) その他</p>	<p>今回は検討の対象外としましたが、ごみの更なる減量化推進のためには、左記（1）～（6）は、今後の重要な課題です。</p>
<p>12. 合同検討会の実証実験で判明した事項及び前提条件など</p>	<p>(1) 燃えるごみの30%弱は雑紙、プラ・ビニールは15%弱、生ごみは35%余であることが判明した。環境課の調査によるも、データの積み重ねなく未公開</p> <p>(2) 茶殻類や調理くず（野菜や果物の皮・芯）は、一日外で干せば40～50%は水分除去できる。真夏でも、臭いも虫も来ない。</p> <p>(3) 調理くずは、エコクッキング（水分除去・使い切り料理）で減量化できる。</p>	<p>合同検討会の実証実験で得られた左記の項目は、今後市民に具体的に実行してもらいたい重要なごみ減量策です。</p>
<p>13. テーマ別の具体化</p> <p>紙を燃えるごみ袋に入れている市民の監視をどう徹底するか。</p> <p>予算の詳細は別途詰める。</p>	<p>(1) 雑紙の分別回収</p> <p>① 雑紙の分別専用袋製作と配布（モデル地区・全世帯）</p> <ul style="list-style-type: none"> * 雑紙の種類、分別のルールと注意を袋に印刷する。 * 雑紙とは何かを明確にする。（新聞・段ボールの違い） * 予算化をお願いしたい。 <p>⑤50円（藤枝市単価）× 世帯数</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆平成28年度 モデル地区 7,000世帯（未定） 350,000円（発注条件：1ロット7,000部製作） ◆平成29年度 全世帯実施（未定） 	<p>(1) 雑紙の分別回収</p> <p>① 雑紙の分別専用袋製作と配布は当面見送ります。但し</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ 専用袋は各家庭で準備し、袋の両面に貼付する紙（雑紙の種類・出し方等を明記）は今後、状況に応じて対応する。 ※ 雑紙の専用袋として国勢調査員用の資料保管袋（布製）を活用し、希望市民に配布する案も検討中。 <p>② 雑紙の分別の市民への徹底</p> <p>平成28年度ごみの収集カレンダー 資源とごみの分け方・出し方に、半ページ確保して市民に雑紙の分別を促す。 (6/12)</p>

1,500,000円≒(50円×30,000世帯)

* 29年度一斉開始案 もあり得る。

- ② 雑紙の完全分別の市民への徹底
 - * 燃えるごみ袋に雑紙は絶対に入れない。
 - * 燃えるごみ袋の色(透明→半透明)の変更検討
 - * 燃えるごみ袋に入っていた場合は回収しないくらいの徹底策を講じる。(監視)
 - * ごみの出し方マニュアルの改訂・市民広報
 - ③ 各地域の雑紙集積場所のチェックと確保
 - ④ 収集業者選定
 - ⑤ 市民は、専用袋の中に家庭内にある排出用袋を入れてその中に毎日集積する。
 - * 藤枝市から教わった葬式用袋と取っ手の紙製化確認
 - ⑥ 決められた排出日に、排出用袋を紐で括って排出する。
 - ⑦ 集団回収の増加策を講じる。
- (2) エコクッキングの家庭内普及(生ごみの自家処理ができない家庭=市のごみ収集に全面的に依存する家庭)
- 「エコクッキング運動」を展開し通常行動化する。
- ① 調理前・後に、ごみに水を付けない工夫をする。
 - ② 新聞などで折り紙箱を作り、箱の中に調理くず・茶殻・紅茶殻・コーヒーカスを入れて、一日以上天日干しを推奨し、水分除去をする。
 - ③ 折り紙箱の折り方を市民に普及させる。
 - ④ 調理ごみを出さない・余分に作らない・食べ残さない。
 - ⑤ 市から全家庭に配布する資料の中で、後々にも残る資料のどれかにエコクッキング(水分除去・調理くずと食べ残し減量)の頁を挿入し徹底する。
 - ⑥ 食推協さんや、島田ガスさんなどが開催する「親子料理教室」などでエコクッキングを徹底する。

生ごみの自家処理をしない市民(市のごみ収集車に依存をする市民)の義務を徹底する。

せめて「水切り」だけはやってもらう。この徹底をどうするか。

収集カレンダーは、3月、全戸に配布されました。

* 雑紙とは何かを明記しました

- ・雑紙の種類
- ・雑紙として回収できないもの(燃えるごみ袋へ)

* 雑紙の出し方を明記しました。

- ・雑誌の間に挟んで出す。
- ・まとめて白い紙のひもで縛って出す。
- ・メモ用紙など小さく細々とした雑紙は、紙袋にまとめて中身が出ないようにして出す。
- ・雑紙に、ビニールやプラスチック、クリップ、金属がついていたらそれは取り除く。

燃えるごみ袋に入れることを禁止(強制)したらどうかの意見もありましたが、当面、燃えるごみ袋の中に占める雑紙の状況を観察・注視していくことになりました。

集団回収の増加策(奨励金の増額)は見送りました。

- (2) エコクッキングの家庭内普及(対象:生ごみの自家処理ができない家庭=市のごみ収集に依存する家庭)

健康づくり課・島田市健康づくり食生活推進協議会さんが、食育指導している「エコクッキング=生ごみの減量化編」を一般家庭に普及させる。①~⑥ 食育指導の中に織り込んで頂く。

* 3/12(土)環境課・健康づくり課・食推協・島田ガス・しまだ環境ひろば・島田市の循環型社会を考える会の共催で企画した「親子でエコクッキングコンテスト」は、応募者が集まらず断念しましたが、有効な企画でした。

* 来る10月15日(土)開催予定の「島田市暮らし・消費・環境展2016」上記団体共催「親子でエコクッキング(仮称)」を計画することになりました。

※ キャンペーン「きゅうすの茶殻を集めてエコグッズをもらおう」は、実施を検討中。(7/12)

予算の詳細は別途詰める。

(3) 生ごみの消滅化（キエーロ）と、生ごみ堆肥化（堆肥化市民団体が実施している方式）の一般家庭内普及

① 生ごみ処理機助成金制度の再構築

対象：キエーロ・ピートモス方式・腐葉土式

さんさんBOX方式の4つ

これまで対象の「ぼかし」をどうするか？

*生ごみ堆肥化マニュアル作成・配布（各市民団体）

*フェア・展示会等展示説明

*助成金：キエーロ 5,000円くらいか。

その他 3,000円くらいか。

*普及のグランドスケジュール

キエーロ 初年度 200基（1,000,000円）

3年間 5,000基へ拡大

5年間 10,000基へ拡大

将来は全戸に拡大する。

其他方式 初年度 50基（既存予算対応）

*ごみの減量化によるコストダウンを前提に、今後の市の予算化をお願いしたい。

<重要> そのためには、ごみの減量化はチマチマしたやり方ではなく、絞った3つのテーマを徹底的（ごみの半減化）にやり、コストは少なくとも30～40%は下げ、その財源を発足時の減量化策に投資する。

徹底的にやるには、**市民の共感と楽しくやる手段**が必要である。

(3) 生ごみの消滅化（キエーロ）と、生ごみの堆肥化（堆肥化市民団体が実施している方式等）の一般家庭内普及

① 平成28年度 生ごみ処理容器等購入費補助金制度の再構築

次の施策が打ち出されました。

<平成28年度ごみ収集カレンダーより抜粋>

補助対象となる購入価格	補助額及び限度額	
3,000円以上10,000円未満 (コンポスト及びボカシ 処理容器等)	購入費の1/2 (3,000円が限度)	一世帯2個まで
10,000円以上30,000円未満 (キエーロ処理容器等)	購入費の1/2 10,000円が限度	一世帯2個まで
30,000円以上 (バイオ式または温風 乾燥式)	購入費1/3 20,000円が限度	一世帯1個まで

② 補助対象に全て、「等」と入れて頂いたもので、市民団体が取り組んでいる生ごみ堆肥化処理容器も対象となります。但し、容器の規格化と領収書の発行（法人格等）が前提となる。

③ 生ごみの減量化が目的であるので、補助対象を制限するのは得策ではないが、無制限な拡大はできないので、環境課を窓口としての「許可制」を検討中。

<p>14. コスト削減</p>	<p>(1) 燃えるごみ量の削減ランク別経費節減シミュレーション</p> <p>① 50%削減の場合 ごみ経費 ?百万円削減</p> <p>② 30%削減の場合 ごみ経費 ?百万円削減</p> <p>今回は、コスト削減の分析が間に合いませんでした。</p> <p>(2) 溶融炉の経費削減に本気になって取り組む必要がある。 社外委託費の見直しが必要</p>	<p>(1) 今回はできませんでした。今後の課題です。</p> <p>(2) 今回はできませんでした。今後の課題です。</p>
<p>15. 目標設定</p> <p>ワクワクする目標例</p>	<p>(1) 市民意識調査で、市民は、市がやれば協力すると言っている。ごみの減量は、いろいろやることが多い中で、合同検討会で当面3つやろうと決めました。(前述)</p> <p>市民に啓蒙や、お願いの時期はとうに過ぎました。もう具体的な実行の時期です。そのためには、市を挙げた「一大キャンペーン」を実施する。</p> <p>(2) 一般市民がわくわくしながら目標に向かってごみの減量活動に積極的に楽しく参加する目標をつくる。</p> <p>① 目標は、「燃えるごみを半分に減らそう」</p> <p>水分除去・生ごみの自家処理化・雑紙の完全分別</p> <p>燃えるごみ袋450袋 → 先ず200袋に挑戦</p> <p>② 市民全員が一致協力して、ごみを半減し、「新市民会館」(市役所庁舎との複合化)の建設費を生み出す位の意気込みでやる。</p>	<p>(1) 今回はできませんでした。今後の課題です。</p> <p>(2) 今回はできませんでした。今後の課題です。</p>
<p>16. 市民への徹底方法</p>	<p>(1) これまでは、資源ごみ以外のごみは、「燃えるごみ袋」に入れて何でも回収していた現行方式を、当面3つに絞ったとは言え、「分別方式」を大幅に拡大するわけですから、「なぜ燃えるごみ」の減量化が必要なのかを市民にしっかり伝え、それをやるには市民の協力がなければ成り立たないことをしっかり市民に説明する必要がある。</p>	<p>(1) 今回はできませんでした。今後の課題です。</p>

< “なぜ” をどの理由にするか> **必然性がなければ市民はついて来ない。**

- ◆ 環境保全か (地球温暖化) → CO2 排出削減 気候変動による影響の拡大
- ◆ 経済的理由か (財政逼迫) **今回はここを強く訴求する。**
 - * ごみ処理のコスト 13 億円 の削減
 - * 将来、ごみの有料化の高い可能性
 - * 近い将来の人口減により、固定費の多いごみの経費は賄いきれない。

(2) このままでいけば有料化せざるを得ない現実と、市民が協力すれば有料にならない次善策を併せてしっかり準備し、どちらを選ぶか、市民に選択をさせる手法をとる必要がある。有料化を回避し、ごみの減量化で乗り切るためには、市民の協力 (分別) が不可欠であることを強く訴求する。

(3) **市民も、行政も退路を断つ。あくまでも例えばですが、**

□ 市民側:① 新市民病院の最新医療機器の購入費 40 億円を (ごみの減量) 生み出す。② 新ごみ最終処分場の建設用地確保は極めて困難 ③ ごみの有料化の回避のため。

④ 新市民会館建設費を生み出す。などなど

- 行政側:① ごみの焼却能力を敢えてダウンさせ原価低減を図る。(燃料費・委託費・人件費など)
- ② 焼却炉を一基止めるなど。

(4) 市民をその気にさせるには、抽象論やべき論ではだめで**実験や先進地域の成功例を踏まえた現実的且つ科学的な提案**でなくてはならない。そうでなければ説得できない。共感を得られない。

(5) 市と市民が協働して市を挙げてやる。

- ① **水切り日本一** (2~3年計画で良い) ごみの水切り

(2) 今回はできませんでした。今後の課題です。

(3) 今回はできませんでした。今後の課題です。

(4) 今回はできませんでした。今後の課題です。

(5) 今回はできませんでした。今後の課題です。

	<p>は、どこの自治体もやっているが、本気で徹底的に取り組んでいるところはなく、市民にお願いや啓蒙活動に止まっています。</p> <p>今回、島田市は、水切りを徹底的にやる。(目標設定) そのための方策を考える。</p> <p>② 生ごみの自家処理日本一</p> <p>③ 雑紙の完全分別</p> <p><具体的な市民への徹底方法></p> <ul style="list-style-type: none"> * 児童環境教育：小学校4・5・6年生・中学生の学校の環境教育への一講座組み込み、田代環境プラザの見学(既見学児童を除く全児童 2年計画) * 自治会(町内会)隣組長会出前講座・田代環境プラザの見学(全自治会・2年計画) * 行政の出前講座への設定 * ごみのマニュアル改定(漫画調・写真入りの分かり易いもの)、別に作るか? * 広報しまだシリーズ投稿 * エコクッキングマニュアルの作成(健康づくり課とのタイアップ) 	
<p>合同検討会の存続</p>	<p>島田市には、ごみに関連した協議会が次の通り存在する。これらを集約した組織の再編成が望ましい。</p> <p>(1)「ごみの更なる減量化推進合同検討会」 周知の通り</p> <p>(2)「地球温暖化防止のための生ゴミ資源化協議会」</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 2009年8月8日設立 ② 生ごみ資源化の研究と実践 ③ しまだ環境ひろば・ぼかし・川根町婦人会・島田市消費者グループ・海とまちと里山くらぶ in しずおか など ④ 現在、休止中。 	<p>今回は、生ごみ自家処理市民組織の統一まではできませんでしたが、減量化に向けての結束や、活動の協働化がなされました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 但し、去る7月9日「島田市生ごみの堆肥化・消滅化市民活動団体意見交換会」を開催し、生ごみの自家処理の一般市民への普及を協働して推進していくことを決めました。 ■ 10月17日「島田市暮らし・消費・環境展」へ協働出展しました。 ■ その後、12月5日(土)には、これら団体が共催して、一般市民を集め、「生ごみ自家処理学習会 あなたにピッタリの生ごみ処理法を選ぼう」を開催し、大変好評でした。 <p style="text-align: right;">(11/12)</p>

	<p>(1) 「島田市廃棄物減量等推進協議会」</p> <p>① 平成27年4月発令予定の「島田市一般廃棄物処理基本計画 ④」に対する提言書を作成した。</p> <p>② 市内のごみの減量化に当たっている市民団体や個人が集められた。</p> <p>(4) 「島田市生ごみの堆肥化・消滅化市民活動団体意見交換会」</p> <p>① 合同検討会の中で、「生ごみの自家処理の推進」を決定したので、去る7月9日、関連の市民団体に集まってもらい、今後の進め方について協議した。</p> <p><出席団体></p> <p>キエーロモニター (金谷・島田・川根)</p> <p>金谷ライフクリエイターサークル</p> <p>川根町 ネットワーク桜花</p> <p>NPO法人しまだ環境ひろば</p> <p>島田市の循環型社会を考える会</p> <p>島田市消費者グループ</p> <p>島田市ゆめ・みらい百人会議エコまち未来P r o j</p> <p>今後どれかに統一して協議会を組織化し、道半ばの「ごみの減量化」問題を推進する必要がある。</p> <p>既存の組織を発展的に衣替えして、実行まで漕ぎつけることが望ましい。</p>	<p>同左</p> <p>同左</p> <p>当面、統一はできませんでした。今後の課題です。</p> <p>(12/12)</p>
--	---	---

以上、9月5日の提言発表会で提案した内容に基づいて、その後、「ごみの更なる減量化推進合同検討会」を継続開催して検討し、**実行に漕ぎつけたもの、できなかったもの(先送りしたものを含む)を整理しました。**検討は多岐に渡りましたが、**合同検討会はこれにて一区切りとしたいと存じます。**

「第一期 島田市ゆめ・みらい百人会議」また「ごみの更なる減量化推進合同検討会」に関わった市長様を始め、行政各課の皆様はこの場を借りまして厚く御礼を申し上げます。先送りした課題も多々ありますので、ごみの減量化の更なる推進に向けて、どうか今後とも宜しくお願い致します。

以上